

2015年8月期 第3四半期業績 および通期見通し

岡崎 健

株式会社ファーストリテイリング
グループ上席執行役員 CFO

1

CFOの岡崎です。
私から、2015年8月期第3四半期の業績、および
通期の業績見通しについてご説明いたします。

I. 第3四半期決算概要	P3	～	P18
II. 2015年8月期 通期業績予想	P19	～	P20
III. ご参考資料	P21	～	P24

【業績開示について】

- ・2014年8月期末より国際会計基準(IFRS)を適用、本資料上の数字については、すべてIFRSベースで記載しております。
- ・事業利益は、売上収益から売上原価、販管費を控除して算出しております。
- ・各セグメントの構成は、以下のとおりです。
 - 国内ユニクロ事業： 国内ユニクロ事業の数値が表示されています。
 - 海外ユニクロ事業： 海外で展開するユニクロ事業が含まれています。
 - グローバルブランド事業： ジューシー事業、セオリー事業、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業、J Brand事業が含まれています。
- ・連結業績には上記の他、ファーストリテイリングの業績、連結調整が含まれております。

【将来予測に関するご注意】

本資料に掲載されている業績予想、計画、目標数値などのうち、歴史的事実でないものは、作成時点で入手可能な情報に基づき作成した将来情報です。実際の業績は、経済環境、市場の需要・価格競争に対する対応、為替などの変動により、この業績予想、計画、目標数値と大きく異なる場合があります。

3Q (9ヶ月累計) 計画上回る増収増益

	1Q～3Q (2014/9～2015/5)			3Q (2015/3～2015/5)			単位：億円
	9ヶ月累計 実績	前年 実績	前年 同期比	3ヶ月 実績	前年 実績	前年 同期比	
売上収益	13,481 100.0%	10,880 100.0%	+23.9%	3,984 100.0%	3,236 100.0%	+23.1%	
売上総利益 (売上比)	6,864 50.9%	5,486 50.4%	+25.1% +0.5p	2,069 51.9%	1,711 52.9%	+20.9% ▲1.0p	
販管費 (売上比)	5,028 37.3%	4,116 37.8%	+22.2% ▲0.5p	1,664 41.8%	1,390 43.0%	+19.7% ▲1.2p	
事業利益 (売上比)	1,836 13.6%	1,370 12.6%	+34.0% +1.0p	404 10.2%	321 9.9%	+26.1% +0.3p	
その他収益・費用 (売上比)	56 0.4%	26 0.2%	+114.4% +0.2p	▲12 -	5 0.2%	- -	
営業利益 (売上比)	1,892 14.0%	1,397 12.8%	+35.5% +1.2p	391 9.8%	326 10.1%	+20.0% ▲0.3p	
税引前四半期利益 (売上比)	2,102 15.6%	1,429 13.1%	+47.1% +2.5p	466 11.7%	323 10.0%	+44.0% +1.7p	
親会社の所有者に帰属する 四半期利益 (売上比)	1,323 9.8%	873 8.0%	+51.5% +1.8p	276 6.9%	202 6.3%	+36.2% +0.6p	

注：事業利益は、売上収益から売上原価、販管費を控除して算出しております。

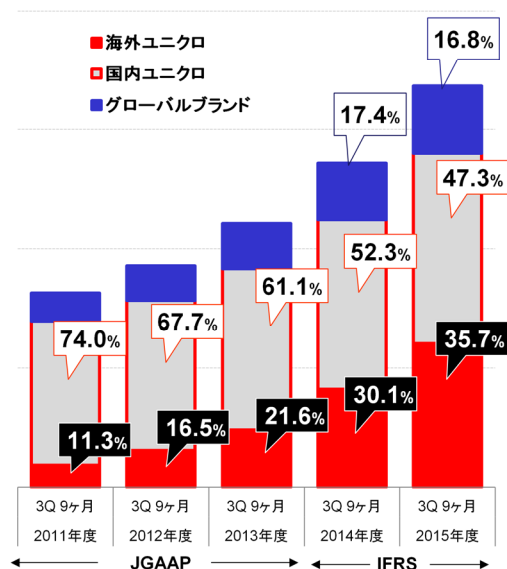
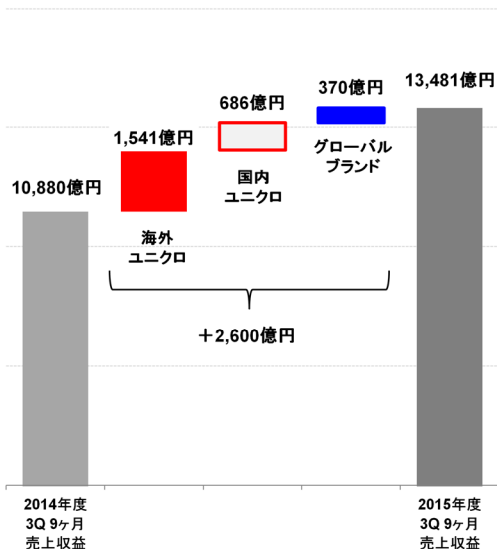
2015年8月期第3四半期9ヶ月累計の連結業績ですが、
売上収益は1兆3,481億円、前年同期比23.9%増、
営業利益は1,892億円、同35.5%増、
税引前四半期利益は2,102億円、同47.1%増、
親会社の所有者に帰属する四半期利益は1,323億円、同51.5%増と
なりました。

第3四半期3ヶ月間では4月に発表した会社計画を上回る業績を達成することが出来ました。

【連結】第3四半期(9ヶ月累計) 売上収益

売上収益2,600億円の増収

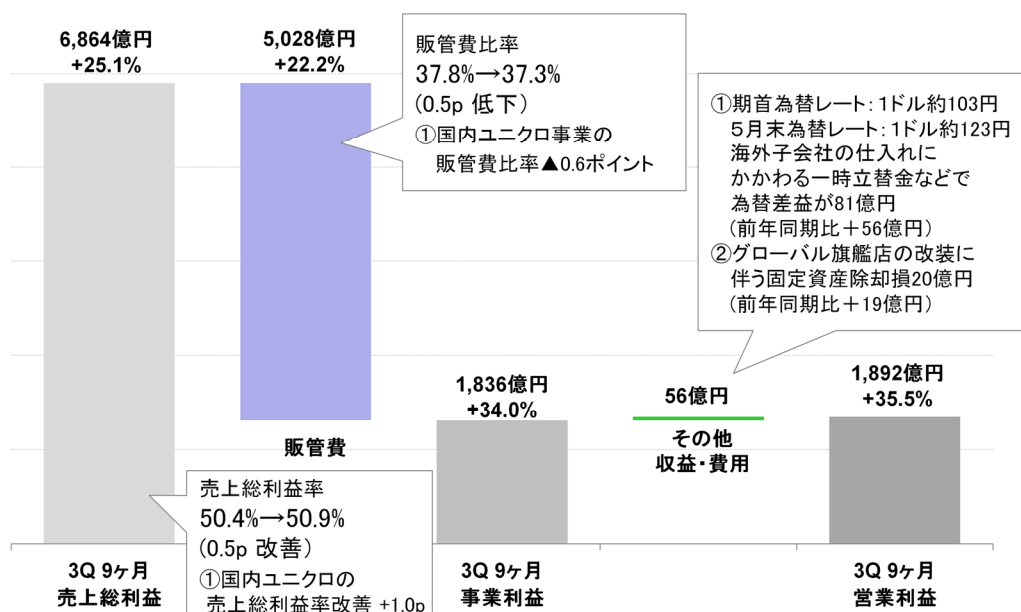
海外ユニクロの売上構成比が拡大



まず、売上収益ですが、1兆3,481億円と前年同期比23.9%増、2,600億円の増収となりました。その内訳としては、海外ユニクロ事業が1,541億円の増収、国内ユニクロ事業が686億円の増収、グローバルブランド事業が370億円の増収となっております。

この結果、海外ユニクロ事業の売上構成比は35.7%と、前年同期比で5.6ポイント拡大いたしました。

【連結】第3四半期(9ヶ月累計) 営業利益



5

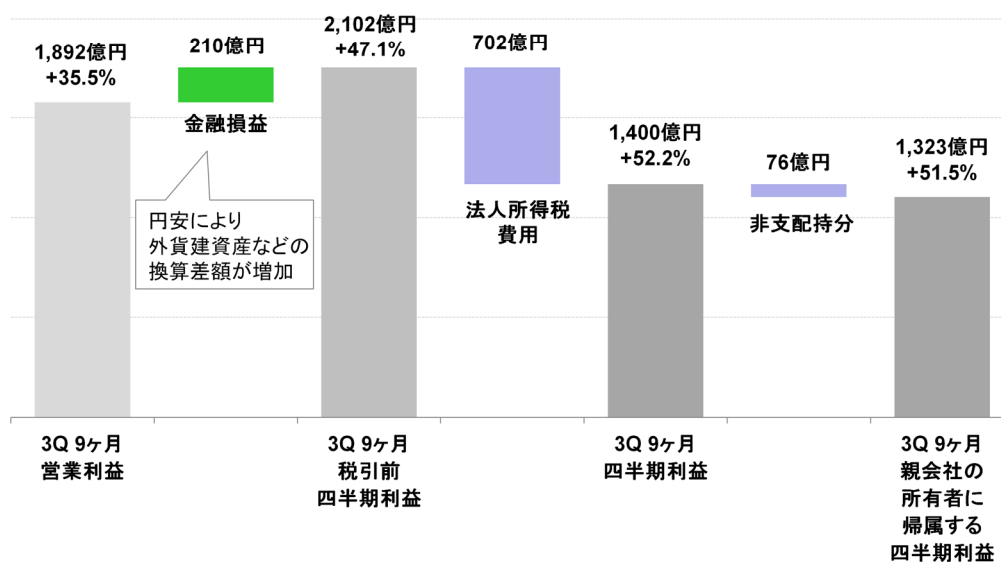
売上総利益は6,864億円と前年同期比25.1%増の増益となりました。
なお、売上総利益率は50.9%と、前年同期比0.5ポイント改善いたしました。
これは主に、国内ユニクロ事業の売上総利益率が同1.0ポイント改善したためです。

販管費は5,028億円と同22.2%増となりました。売上販管費比率は37.3%と、前年同期比0.5ポイント低下しております。これは主に国内ユニクロ事業で販管費比率が0.6ポイント低下したことによります。

売上収益から売上原価、販管費を控除した事業利益は1,836億円と同34.0%増の増益となりました。

その他収益・費用の合計は56億円と同29億円増加いたしました。
これは主に、為替レートが期首に比べ円安となったことにより、海外子会社の仕入れにかかわる一時立替金などで為替差益が81億円と前年同期比で56億円増加した一方で、英国、中国のグローバル旗艦店などの改装に伴う固定資産除却損が20億円と同19億円増加したためです。

これらの結果、営業利益は1,892億円、同35.5%増の増益となりました。



次に、金融損益ですが、為替が円安になったことから、外貨建資産などの換算差額が増え、金融損益はネットで210億円のプラスとなっております。

この結果、税引前四半期利益は2,102億円と同47.1%増、親会社の所有者に帰属する四半期利益は1,323億円、同51.5%増となりました。

【セグメント別】第3四半期実績

単位：億円

		1Q～3Q (2014/9～2015/5)			3Q (2015/3～2015/5)		
		9ヶ月累計 実績	前年 実績	前年 同期比	3ヶ月 実績	前年 実績	前年 同期比
国内ユニクロ事業	売上収益	6,381	5,694	+12.0%	1,836	1,638	+12.0%
	事業利益 (売上比)	1,127 17.7%	917 16.1%	+22.9% +1.6p	241 13.1%	218 13.3%	+10.4% ▲0.2p
	その他収益・費用	10	18	▲43.9%	2	0	+720.0%
	営業損益 (売上比)	1,137 17.8%	935 16.4%	+21.6% +1.4p	243 13.2%	218 13.3%	+11.2% ▲0.1p
海外ユニクロ事業	売上収益	4,818	3,277	+47.0%	1,363	956	+42.5%
	事業利益 (売上比)	540 11.2%	336 10.3%	+60.5% +0.9p	108 7.9%	65 6.8%	+66.5% +1.1p
	その他収益・費用	▲20	▲1	—	▲17	7	—
	営業損益 (売上比)	519 10.8%	335 10.2%	+55.0% +0.6p	90 6.7%	72 7.6%	+25.2% ▲0.9p
グローバル ブランド事業	売上収益	2,259	1,888	+19.6%	777	635	+22.3%
	事業利益 (売上比)	208 9.2%	149 7.9%	+38.9% +1.3p	84 10.9%	57 9.0%	+47.3% +1.9p
	その他収益・費用	▲10	▲6	—	▲3	▲8	—
	営業損益 (売上比)	197 8.8%	143 7.6%	+37.8% +1.2p	80 10.4%	48 7.6%	+66.1% +2.8p

注：連結業績には上記の他、ファーストリテイリングの業績、連結調整が含まれております。

国内ユニクロの業績にはグループ間取引が含まれております(売上収益を除く)。

事業利益は、売上収益から売上原価、販管費を控除して算出しております。

セグメント別の業績は、スライド7ページの通りです。

第3四半期9ヶ月累計では

国内ユニクロ事業の売上収益は6,381億円、営業利益は1,137億円、

海外ユニクロ事業の売上収益は4,818億円、営業利益は519億円、

グローバルブランド事業の売上収益は2,259億円、営業利益は197億円と、

全セグメントで増収増益を達成いたしました。

3Q (3~5月) 計画を上回る増収増益

単位:億円

	1Q~3Q (2014/9~2015/5)			3Q (2015/3~2015/5)		
	9ヶ月累計 実績	前年 実績	前年 同期比	3ヶ月 実績	前年 実績	前年 同期比
売上収益 (売上比)	6,381 100.0%	5,694 100.0%	+12.0%	1,836 100.0%	1,638 100.0%	+12.0%
売上総利益 (売上比)	3,166 49.6%	2,768 48.6%	+14.4% +1.0p	914 49.8%	834 50.9%	+9.6% ▲1.1p
販管費 (売上比)	2,038 31.9%	1,850 32.5%	+10.1% ▲0.6p	673 36.7%	616 37.6%	+9.3% ▲0.9p
事業利益 (売上比)	1,127 17.7%	917 16.1%	+22.9% +1.6p	241 13.1%	218 13.3%	+10.4% ▲0.2p
その他収益・費用 (売上比)	10 0.2%	18 0.3%	▲43.9% ▲0.1p	2 0.1%	0 0.0%	+720.0% +0.1p
営業利益 (売上比)	1,137 17.8%	935 16.4%	+21.6% +1.4p	243 13.2%	218 13.3%	+11.2% ▲0.1p

注: 国内ユニクロの業績にはグループ間取引が含まれております(売上収益を除く)。

ここからは、各セグメントの業績を第3四半期3ヶ月間でお話しさせていただきます。

まず、国内ユニクロ事業ですが、第3四半期3ヶ月間の売上収益、営業利益ともに直近予想を上回る増収増益となりました。

【国内ユニクロ事業】売上収益の状況

3Q 売上収益1,836億円（前年同期比+12.0%）
（3～5月）・既存店売上高：前年同期比+9.9%（客単価+9.8%、客数+0.1%）
 ・Eコマースの販売が+35.5%と好調

販売動向

- ・3月は羽織物やボトムスを中心に販売が順調も、土日祝日の日数が前年に比べ2日少なく、既存店売上高が前年を下回る
- ・4月、5月は例年より気温が高く、天候に恵まれたことから、ドライ系ボトムスやエアリズムインナー、エアリズム素材を使ったパーカー、Tシャツを中心に夏物商品の販売が好調。特に、ゴールデンウィーク商戦と感謝祭が好調

客単価

- ・客単価上昇は、比較的単価の高い羽織物、ボトムスの販売の好調による

直営既存店 前年比	2015年8月期					
	上期累計	3月	4月	5月	3Q	6月
売上高	+8.4%	▲3.0%	+19.3%	+12.3%	+9.9%	▲11.7%
客数	▲1.6%	▲10.5%	+6.7%	+2.8%	+0.1%	▲14.6%
客単価	+10.2%	+8.4%	+11.8%	+9.3%	+9.8%	+3.4%

2015年5月末 直営店舗数814店舗、前年同期末比▲27店舗
 FC店30店、同+9店

9

国内ユニクロ事業の第3四半期3ヶ月間の売上収益は1,836億円と、前年同期比12.0%の増収となりました。これは主に、既存店売上高が9.9%増となったこと、Eコマースの販売が35.5%増と好調だったためです。

3月はステンカラーコート、ジャケットなどの羽織物やアンクルパンツといったボトムスを中心に販売が順調でしたが、土日祝日の日数が前年に比べ2日少なかったことから、既存店売上高が前年を下回りました。
 4月、5月は例年より気温が高く、天候に恵まれたことから、ドライ系ボトムスやエアリズムインナー、エアリズム素材を使ったパーカー、Tシャツを中心に夏物商品の販売が好調でした。特に、ゴールデンウィーク商戦と、5月末の感謝祭は多くのお客様にご来店いただき、大変好調な販売となりました。

既存店売上高9.9%増の内訳は、客単価で9.8%の増加、客数で0.1%の増加となっております。客単価が上昇した要因は、比較的単価の高い羽織物、ボトムスの販売が好調だったことによります。

なお、5月末の直営店舗数は814店舗と前年同期末比で27店舗の減少となりました。このうち、9店舗は直営店がフランチャイズ店に転換したものです。

【国内ユニクロ事業】売上総利益率

3Q
(3～5月) 売上総利益率 49.8% (前年同期比▲1.1p)

- ・直近予想に比べ、ほぼ計画通りの水準
- ・昨年に比べ粗利益率が低下した要因は、
上期からの好調な販売により増産を重ねた結果、
春夏商品の一部の調達をスポット為替レート
で行ったことにより、原価が上昇したため

10

次に、国内ユニクロ事業の第3四半期3ヶ月間の売上総利益率ですが、49.8%と前年同期比1.1ポイント低下いたしました。これは直近予想に比べ、ほぼ計画通りの水準となっております。

昨年に比べ粗利益率が低下した要因は、上期からの好調な販売により増産を重ねた結果、春夏商品の一部の調達をスポット為替レートで行ったことにより、原価が上昇したためです。

**3Q
(3~5月) 売上販管費比率 36.7% (前年同期比-0.9p)**

**計画に対して金額ベースは若干上回る
売上比率では改善**

賃借料	前年同期比	-0.6ポイント
人件費	同	-0.3ポイント
広告宣伝費	同	-0.3ポイント
減価償却費	同	-0.1ポイント
その他経費	同	+0.4ポイント

11

第3四半期3ヶ月間の売上販管費比率は36.7%と、前年同期比0.9ポイント低下しております。計画に対して金額ベースでは若干上回りましたが、売上比率では改善いたしました。

経費比率の内訳としては、賃借料で0.6ポイント、人件費で0.3ポイント、広告宣伝費で0.3ポイント、減価償却費で0.1ポイント低下している一方で、その他経費で0.4ポイント増加しております。

広告宣伝費比率の低下は、経費の見直しなど計画的に削減しているもので、金額ベースでほぼ計画通りとなっております。

賃借料率の低下は、既存店売上高が好調だったことにより、効率が改善されたためです。

人件費比率は、売上が好調だったことから、金額ベースでは若干計画を上回りましたが、売上比率では改善しております。

その他経費比率の上昇は、物流費や委託費が上昇したことによりです。

3Q (3~5月) 計画通りの増収増益

- ・営業利益率の低下は、英国、中国のグローバル旗艦店の改装に伴い、その他費用に固定資産除却損20億円を計上したため
- ・グレーターチャイナ、韓国は計画を上回る増収増益
- ・欧州は旗艦店改装の影響により減益も、計画を若干上回る
- ・東南アジア地区、米国は計画を下回る。米国は赤字幅拡大

単位: 億円

		1Q~3Q (2014/9~2015/5)			3Q (2015/3~2015/5)		
		9ヶ月累計 実績	前年 実績	前年 同期比	3ヶ月 実績	前年 実績	前年 同期比
海外ユニクロ事業	売上収益	4,818	3,277	+47.0%	1,363	956	+42.5%
	事業利益 (売上比)	540 11.2%	336 10.3%	+60.5% +0.9p	108 7.9%	65 6.8%	+66.5% +1.1p
	その他収益・費用	▲ 20	▲ 1	-	▲ 17	7	-
	営業損益 (売上比)	519 10.8%	335 10.2%	+55.0% +0.6p	90 6.7%	72 7.6%	+25.2% ▲0.9p

12

次に、海外ユニクロ事業についてご説明いたします。

第3四半期3ヶ月間での売上収益は1,363億円、前年同期比42.5%増、営業利益は90億円、同25.2%増とほぼ計画通りの増収増益となりました。なお、この3ヶ月間の平均為替レートは、会社予想レートと乖離がなかったため、現地通貨ベースでもほぼ計画通りの業績となっております。

営業利益率は前年同期比で0.9ポイント低下しておりますが、これは、英国、中国のグローバル旗艦店などの改装に伴い、その他費用に固定資産除却損20億円を計上したためです。

第3四半期3ヶ月間では、特にグレーターチャイナ、韓国で既存店売上高の増収が続き、計画を上回る増収増益となりました。

欧州は旗艦店改装の影響により減益となったものの、計画に対しては若干上回った業績となりました。

東南アジア地区、米国では計画を下回る結果となり、米国は赤字幅が拡大いたしました。

第3四半期3ヶ月間では、中国を中心に57店舗を出店、6店舗を閉店し、海外ユニクロ事業全体の5月末の店舗数は前年同期末比169店舗増の767店舗まで拡大いたしました。

3Q (3~5月) 各エリアの業績トレンド

- ・**グレーターチャイナ: 計画を上回る大幅な増収増益**
春夏のコア商品の販売が好調、既存店売上高が増収、5月末の店舗数は442店舗
- ・**韓国: 計画を上回る増収増益**
既存店売上高の増収が継続
- ・**東南アジア: 増収増益も、計画を若干下回る**
春物販売の不調により売上、利益ともに計画を若干下回る
- ・**オーストラリアはほぼ計画通りの増収、赤字幅は昨年に比べ縮小**
- ・**米国: 売上、営業利益ともに計画を下回り、赤字幅は拡大**
春夏商品の立ち上がりが遅れたことで既存店売上高は減収、新規店舗の売上も未達
値引き販売が増えたことにより赤字幅が拡大
- ・**欧州: 減益も、計画に対しては若干上回る**
311オックスフォードストリート店が改装で閉店している影響により減益

13

次に、各エリアの第3四半期3ヶ月間の業績トレンドですが、中国、香港、台湾といったグレーターチャイナでは、春夏のコア商品の販売が好調で既存店売上高が増収となったことから、計画を上回る大幅な増収増益となりました。第3四半期ではグレーターチャイナ全体で30店舗を出店、3店舗を閉店し、5月末の店舗数は442店舗に達しております。

韓国でも、既存店売上高の増収が続き、計画を上回る増収増益を達成いたしました。第3四半期では16店舗を出店、1店舗を閉店し、5月末の店舗数は154店舗に達しております。

シンガポール、マレーシア、タイ、フィリピン、インドネシアといった東南アジア地区では、増収増益となったものの、春物販売の不調により売上、利益ともに計画を若干下回っております。第3四半期では6店舗を出店、1店舗を閉店し、5月末の店舗数は100店舗に達しております。

オーストラリアは、ほぼ計画通りの増収を達成し、第3四半期3ヶ月間では、前年同期比で赤字幅が縮小しております。第3四半期では2店舗を出店し、5月末の店舗数は6店舗に達しております。

米国は、売上、営業利益ともに計画を下回り、赤字幅は拡大いたしました。春夏商品の立ち上がりが遅れたことにより既存店売上高は減収、新規店舗の売上も計画未達となっております。また、値引き販売が増えたことにより赤字幅が拡大いたしました。第3四半期では1店舗を出店し、5月末の店舗数は40店舗となっております。

英国、フランス、ロシア、ドイツといった欧州では、グローバル旗艦店の311オックスフォードストリート店が3月から改装で閉店している影響により減益となったものの、計画に対しては若干上回った業績となりました。第3四半期では2店舗を出店、1店舗が改装により閉店し、5月末の店舗数は25店舗となっております。

3Q (3~5月) 計画を上回る増収増益

- ・ジーユー事業：計画上回る大幅な増収増益を達成
既存店売上高は2桁増収、営業利益率は大幅に改善。5月に台湾へ3店舗目を出店
- ・セオリー事業：営業利益は計画を下回り、若干の減益
日本のセオリー事業はほぼ前年並みの業績
米国ではラグジュアリー市場の不調により売上が計画を下回り、若干の減益
- ・コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業、
：ほぼ計画通り、前年並み
- ・J Brand事業：増収も、赤字が継続

単位：億円

		1Q~3Q (2014/9~2015/5)			3Q (2015/3~2015/5)		
		9ヶ月累計 実績	前年 実績	前年 同期比	3ヶ月 実績	前年 実績	前年 同期比
グローバルブランド 事業	売上収益	2,259	1,888	+19.6%	777	635	+22.3%
	事業利益 (売上比)	208 9.2%	149 7.9%	+38.9% +1.3p	84 10.9%	57 9.0%	+47.3% +1.9p
	その他収益・費用	▲ 10	▲ 6	-	▲ 3	▲ 8	-
	営業損益 (売上比)	197 8.8%	143 7.6%	+37.8% +1.2p	80 10.4%	48 7.6%	+66.1% +2.8p

14

グローバルブランド事業の第3四半期3ヶ月間の売上収益は777億円、前年同期比22.3%増、営業利益は80億円、同66.1%増と、計画を上回る増収増益となりました。

ジーユー事業は、第3四半期3ヶ月間では計画を上回る大幅な増収増益を達成しております。既存店売上高は2桁増収と好調で、営業利益率は大幅に改善いたしました。第3四半期3ヶ月間では29店舗を出店、5店舗を閉店し、5月末の店舗数は319店舗となりました。なお、5月には台湾へ3店舗目を出店し、台湾での存在感も高まっております。

セオリー事業は、増収となったものの、営業利益は計画を下回り若干の減益となりました。日本のセオリー事業はほぼ前年並みの業績となった一方で、米国のセオリー事業はラグジュアリー市場の不調により売上が計画を下回り、若干の減益となりました。

コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業は、ほぼ計画通り前年並みの業績となっております。

J Brand事業は、増収とはなりましたが、赤字が継続しております。

1. ニット、スカート、アウター、ガウチョパンツ、ゆるキレスカート&パンツなどトレンドをつかんだ商品企画
2. 若年層に限らない幅広い年代へ顧客層が拡大
3. 柔軟な増産への対応
4. 効果的なデジタルマーケティングの活用



15

今期はジーユーの業績好調が続いておりますが、その要因について簡単にご説明いたします。

まず、ニット、スカート、アウター、ガウチョパンツ、ゆるキレスカート&パンツなど、トレンドをつかんだ商品を生み出す企画力が挙げられます。これにより、ティーンエイジャーなどの若年層に限らない幅広い年代へ顧客層が拡大しております。

また、シーズン初めに試し売りを行い、販売状況に応じた柔軟な増産を行っていることも販売好調の要因です。たとえば、この春、ヒット商品になったガウチョパンツは増産を重ねることにより、数年前にヒットした990円ジーンズの年間販売枚数をすでに数カ月で超える販売枚数となっております。

さらに、LINEやメール配信などの効果的なデジタルマーケティングで、より多くのお客様に最新のファッション情報をお届けすると同時に、ジーユーの商品をご紹介します、販売につなげることができています。

【連結】2015年5月末 B/S

単位：億円

	2014年5月末	2014年8月末	2015年5月末	前年同期比
資産合計	9,788	9,923	12,706	+2,917
流動資産	6,899	7,170	9,605	+2,705
非流動資産	2,888	2,752	3,100	+212
負債	3,287	3,562	4,236	+949
資本合計	6,500	6,360	8,469	+1,968

16

次に2015年5月末のバランスシートのご説明をいたします。

資産合計は1兆2,706億円と、前年同期末比2,917億円増加いたしました。
これは、流動資産が同2,705億円増加したこと、および非流動資産が
同212億円増加したためです。

詳細については、次のスライドでご説明いたします。

【連結】B/Sのポイント(前年同期末比)

流動資産の増加 +2,705億円 (6,899億円⇒9,605億円)

・現金及び現金同等物の増加: +965億円 (3,274億円⇒4,240億円)

・たな卸資産の増加: +278億円 (1,722億円⇒2,001億円)

【国内UQ】+0億円

【海外UQ】+235億円 店舗数が前年同期末比で169店舗増加

【グローバルブランド】+42億円 ジューシー事業、セオリー事業の事業拡大による在庫増

・デリバティブ金融資産: +1,161億円 (資産975億円⇒2,137億円)

5月末の為替レートが、国内ユニクロなどで保有する為替予約の平均レートより円安となり、その乖離が拡大したため、前年同期末に比べ1,161億円増加。

ヘッジ会計を適用していることから、損益への影響はない

非流動資産の増加 +212億円 (2,888億円⇒3,100億円)

・有形固定資産の増加: +240億円 (1,128億円⇒1,369億円)

【海外UQ】前年同期末比169店舗増加 【グローバルブランド】前年同期末比92店舗増加

・無形資産の減少: ▲111億円 (913億円⇒801億円)

【グローバルブランド】2014年8月末にJ Brand事業の減損損失

17

まず、流動資産が2,705億円増加した要因をご説明いたします。
現金及び現金同等物は4,240億円と、前年同期末比で965億円増加いたしました。
これは、ユニクロ事業をはじめとする各事業の営業キャッシュフローが増加したことによります。

たな卸資産は2,001億円と、前年同期末比278億円増加しております。
国内ユニクロ事業の在庫は前年同期末比横ばい、
海外ユニクロ事業の在庫は、同235億円増加いたしました。
これは、5月末の店舗数が、前年同期末比で169店舗増えたことによります。
グローバルブランド事業の在庫は、同42億円増加しております。これは、
ジューシー事業、セオリー事業の事業拡大に伴って在庫が増加したことによります。

デリバティブ金融資産は、資産側で2,137億円となりました。国内ユニクロ事業などでは、長期的なヘッジ方針に従って為替予約を行っております。5月末の為替レートが、保有する為替予約の平均レートより円安となり、その乖離が拡大したため、前年同期末に比べ1,161億円増加いたしました。
なお、ヘッジ会計を適用していることから、損益への影響はありません。

非流動資産は、前年同期末比で212億円増加しております。
これは、海外ユニクロ事業、グローバルブランド事業で店舗数がそれぞれ同169店舗、92店舗増加したことにより有形固定資産が同240億円増加したことによります。一方で、無形資産は、2014年8月期末にJ Brandの減損損失を計上したことにより、111億円減少いたしました。

【連結】第3四半期(9ヶ月累計) キャッシュ・フロー

単位: 億円

	2014年8月期 第3四半期累計	2015年8月期 第3四半期累計	コメント
営業活動によるキャッシュ・フロー	+1,124	+1,811	
税引前四半期利益	+1,429	+2,102	ユニクロ事業をはじめとする各事業の利益貢献
減価償却費及びその他償却費	+216	+275	
運転資金の増減額	▲243	+0	棚卸資産が8月末に比べ減少
法人税等の支払い・還付	▲432	▲526	
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲379	▲608	
定期預金の増減額(▲は増加)	-	▲173	一時的に3ヵ月超の定期預金が増加
有形固定資産の取得による支出	▲306	▲324	出店拡大に伴う投資
無形資産の取得による支出	▲46	▲57	システム投資など
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲357	▲411	
配当金の支払額	▲305	▲331	期末配当金1株当たり150円、中間配当金175円の支払
現金及び現金同等物に係る換算差額	+40	+308	
現金及び現金同等物の増加額	+427	+1,100	
現金及び現金同等物期首残高	2,967	3,140	
現金及び現金同等物期末残高	3,394	4,240	

18

次に、第3四半期累計のキャッシュ・フローについてご説明いたします。

営業活動によるキャッシュ・フローは、1,811億円の収入となりました。これは、ユニクロ事業をはじめとする各事業の利益貢献が2,102億円と収入が増加したことによりです。

投資活動によるキャッシュ・フローは608億円の支出となりました。支出の主な内訳としては、定期預金で173億円、有形固定資産の取得で324億円、システム投資などによる無形資産の取得で57億円となっております。一時的に3ヶ月超の定期預金が増加したため、投資活動による支出は昨年に比べ大幅に増加いたしましたが、この資金173億円は実質的には流動性が高い資金と言えます。

なお、第3四半期累計の設備投資額は480億円、内訳としては、国内ユニクロ事業で78億円、海外ユニクロ事業で268億円、グローバルブランド事業で76億円、システム投資などで57億円となっております。

財務活動によるキャッシュ・フローは、411億円の支出となりました。主な内訳としては、配当金の支払額331億円の支出となっております。

以上の結果、2015年5月末における現金及び現金同等物の期末残高は4,240億円となりました。

【連結】2015年8月期 通期業績予想

売上収益 : 1兆6,500億円 前期比 +19.3%
営業利益 : 2,000億円 前期比 +53.4%
**親会社の所有者に
帰属する当期利益** : 1,200億円 前期比 +61.0%

	2014年8月期 通期実績	2015年8月期	
		通期予想 (7/9時点)	前期比
売上収益 (売上比)	13,829 100.0%	16,500 100.0%	+19.3%
営業利益 (売上比)	1,304 9.4%	2,000 12.1%	+53.4% +2.7p
税引前利益 (売上比)	1,354 9.8%	2,115 12.8%	+56.1% +3.0p
当期利益 (売上比)	793 5.7%	1,300 7.9%	+63.9% +2.2p
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (売上比)	745 5.4%	1,200 7.3%	+61.0% +1.9p

単位: 億円

19

2015年8月期連結の通期業績予想につきましては、4月9日に発表した直近予想より、変更はございません。

5月末の為替は、1ドル約123円と、期首に比べて円安になったことから、金融収益で200億円の為替換算差益が発生しております。

業績予想の前提である115億円の為替差益を上回ってはおりますが、為替市場の変動が大きいことから、今回は直近予想から変更しておりません。

この結果、通期では売上収益1兆6,500億円、営業利益2,000億円、税引前利益2,115億円、当期利益1,300億円、親会社の所有者に帰属する当期利益1,200億円を見込んでおります。

国内ユニクロ事業:通期は増収増益

- ・4Qは売上が下振れ、計画を下回る見込み

海外ユニクロ事業:大幅な増収増益

- ・グレーターチャイナ、韓国の業績は引き続き好調なトレンドを維持、大幅な増収増益
- ・米国の赤字幅は拡大する見込み
- ・通期の海外ユニクロ事業の出店数は185店舗へ下方修正、ただし出店方針に変更なし

グローバルブランド事業:増収増益

- ・ジーユー事業は、通期で増収増益、営業利益率も改善を見込む
- ・セオリー事業、コントワー・デ・コトニエ事業、J Brand事業などその他のブランドは計画を下回り、減益の見込み

海外ユニクロ事業 出店予想	
グレーターチャイナ	107店舗
韓国	26店舗
東南アジア・オセアニア地区	29店舗
米国	17店舗
欧州	6店舗
合計	185店舗

グローバルブランド 出店予想	
GU事業	59店舗
セオリー事業	51店舗
CDC	9店舗
合計	119店舗

20

次に、各事業の業績トレンドを申し上げます。

通期の国内ユニクロ事業は増収増益を見込んでおります。

第3四半期では、計画を上回る業績となりましたが、6月の既存店売上高が11.7%の減収になるなど、天候の影響で販売動向が安定しておらず、第4四半期の業績は計画を下回る見込みです。

通期の海外ユニクロ事業は大幅な増収増益を見込んでおります。

グレーターチャイナ、韓国の業績は引き続き好調なトレンドを維持し、大幅な増収増益を予想しておりますが、米国の赤字幅は拡大する見込みです。

通期の海外ユニクロ事業全体の出店数は200店舗を予定しておりましたが、現時点の予想では185店舗へと下方修正させていただきます。これは、ショッピングモールの開業が遅れたことなどにより出店時期が来期にずれ込む店舗が増えたことによるものです。出店方針には変更はございません。

グローバルブランド事業全体では、通期で増収増益を見込んでおります。

ジーユー事業は、大幅な増収増益を見込み、営業利益率も改善する見込みです。一方、セオリー事業、コントワー・デ・コトニエ事業、J Brand事業などその他のブランドの業績は計画を下回り、減益になる見込みです。

なお、配当金につきましては、既の実施した1株当り中間配当金175円と、期末配当金175円をあわせて、年間配当金350円を予想しております。

デジタルイノベーションの実現をめざし、協業を合意

①“新しいお買物体験”の実現

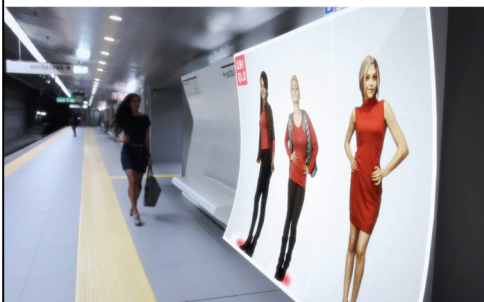
- ・実店舗とデジタル店舗の境なく、いつでもどこでも快適にお買い物を楽しんでいただける環境の構築
- ・お客様の趣向をすばやく商品に反映させ、よりよいコーディネートなどを提案、サービスの向上

②デジタルイノベーションによる“新しい産業”の創出

- ・業務プロセスの完全デジタル化による商品の企画から販売までのリードタイムの短縮

③共同事業への取り組み

- ・国内外問わずデジタルイノベーションを推進する優秀なIT人材の採用および育成
- ・業務の変化に合わせたシステムやインフラ構築の内製化
- ・実店舗とデジタル店舗の両チャネルのシームレス化
- ・クラウド化によりあらゆる情報や技術へのアクセス
- ・スマートフォンやタブレット端末といったモバイル端末の活用したデジタルイノベーションの実現



最後に、6月15日に発表いたしました、アクセントチュア株式会社様との協業の合意について簡単にご説明いたします。

アクセントチュア様とは、これまで約15年間に渡ってさまざまなプロジェクトで協働してまいりました。今回の合意により、新しいお買物体験の実現、デジタルイノベーションによる新しい産業の創出をめざしてまいります。

私どもは、実店舗とデジタル店舗の境なく、いつでもどこでも快適にお買い物を楽しんでいただける環境の構築、お客様の趣向をすばやく商品に反映させ、よりよいコーディネートなどを提案、サービスの向上といった新しいお買物体験を実現させていきたいと考えています。

また、業務プロセスの完全デジタル化による商品の企画から販売までのリードタイムの短縮などにも取り組み、新しい産業の創出をめざしております。

これらを実現するべく、アクセントチュア様とは、具体的には、国内外問わずデジタルイノベーションを推進する優秀なIT人材の採用と育成、業務の変化に合わせたシステムやインフラ構築の内製化、さらには、実店舗とデジタル店舗の両チャネルのシームレス化、クラウド化によるあらゆる情報や技術へのアクセスの実現に取り組んでいく予定です。

これに加え、スマートフォンやタブレット端末といったモバイル端末の普及により、今は全世界とつながることが出来ます。我々はモバイルを活用し、いつでもどこでも買い物が楽しめるデジタルイノベーションを実現したいと考えています。

私からの説明は以上です。ありがとうございます。

連結対象会社別出退店 実績

【単位：店舗】	14年8月期	2015年8月期 1Q～3Q (2014/9～2015/5)			
	期末	出店	退店	純増	期末
ユニクロ事業合計	1,485	193	67	+126	1,611
国内ユニクロ事業： ※	852	44	52	▲8	844
直営店	831	34	51	▲17	814
大型店	199	17	9	+8	207
標準店等	632	17	42	▲25	607
フランチャイズ	21	10	1	+9	30
海外ユニクロ事業：	633	149	15	+134	767
中国	306	65	9	+56	362
香港	22	4	1	+3	25
台湾	46	9	0	+9	55
韓国	133	24	3	+21	154
シンガポール	18	5	0	+5	23
マレーシア	21	3	0	+3	24
タイ	20	4	1	+3	23
フィリピン	16	7	0	+7	23
インドネシア	4	3	0	+3	7
オーストラリア	1	5	0	+5	6
米国	25	15	0	+15	40
英国	10	0	1	▲1	9
フランス	6	2	0	+2	8
ロシア	4	3	0	+3	7
ドイツ	1	0	0	0	1
グローバルブランド事業	1,268	115	33	+82	1,350
ジーユー事業	276	57	14	+43	319
セオリー事業※	460	51	10	+41	501
コントワー・デ・コトニエ事業※	374	7	5	+2	376
プリンセス タム・タム事業※	152	0	2	▲2	150
J Brand	6	0	2	▲2	4
総 合 計	2,753	308	100	+208	2,961

注：ミーナ事業、グラミンユニクロ事業の店舗は含まない

※フランチャイズ店を含む

連結対象会社別出退店 予想

【単位：店舗】	14年8月期 期末	2015年8月期 予想			
		出店	退店	純増減	期末
ユニクロ事業合計	1,485	232	76	+156	1,641
国内ユニクロ事業： ※	852	47	59	▲12	840
直営店	831	37	58	▲21	810
大型店	199	17	9	+8	207
標準店等	632	20	49	▲29	603
フランチャイズ	21	10	1	+9	30
海外ユニクロ事業	633	185	17	+168	801
グローバルブランド事業 ※	1,268	119	46	+73	1,341
総 合 計	2,753	351	122	+229	2,982

注：ミナナ事業、グラミンユニクロ事業の店舗は含まない ※フランチャイズ店を含む

為替レート、設備投資、減価償却費

適用為替レート

単位：円

	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2015年8月期 第3四半期(9ヶ月平均)	115.3	137.5	180.2	18.6	10.7
2014年8月期 第3四半期(9ヶ月平均)	101.4	138.2	165.9	16.6	9.5
2015年8月期 通期予想レート(7/9時点)	118.0	132.0	185.5	19.2	10.7
2014年8月期 通期実績(12ヶ月平均)	101.5	138.2	167.5	16.5	9.6

設備投資 減価償却費

単位：億円

	設備投資	減価償却費
2015年8月期 第3四半期実績(9ヶ月累計)	480	275
2014年8月期 第3四半期実績(9ヶ月累計)	414	216
2015年8月期 通期予想(12ヶ月累計)	603	321
2014年8月期 通期実績(12ヶ月累計)	588	308

設備投資内訳

2014年8月期 3Q累計実績：国内ユニクロ 66億円、海外ユニクロ 233億円、グローバルブランド事業 65億円、システム他 45億円

2015年8月期 3Q累計実績：国内ユニクロ 78億円、海外ユニクロ 268億円、グローバルブランド事業 76億円、システム他 57億円

2015年8月期 通期予想：国内ユニクロ 85億円、海外ユニクロ 312億円、グローバルブランド事業 106億円、システム他100億円